

日之影町立高巣野小学校の学力向上への取組

1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

- ① 文脈に即した内容の理解と記述などに関する問題の正答率が低い。(国語)
- ② 下水処理やごみに関する事項や宮崎の人々の暮らしに関する知識が十分に身に付いていない。(社会)
- ③ 複雑な図形の面積など、図形に関する問題の正答率が低い。(算数)
- ④ 星座の動き、水の対流の問題の誤答率が高い。科学的な思考力を要する問題をやや苦手としている。(理科)

(2) 意識調査結果から見た課題

- ① 本やドラマなどを見て、人の生き方に感動することがあまりない状況である。
- ② 授業で習ったことを自分なりにまとめたり、生活と結びつけて考えることが少ない。
- ③ 正しい姿勢を意識できていない。
- ④ ニュースや新聞など、社会の出来事に関心が低い。
- ⑤ 家族との関わり、基本的な生活習慣が十分身に付いているとは言えない。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針

昨年度の調査結果に見る課題を受けて、その課題解決に向け、児童一人一人の確かな学力の向上に努める。

- ① 主題研究で、「自分の思いや考えを分かりやすく伝え合う児童の育成」を目指し、読みを深める話し合いの在り方を授業研究を中心にして検証し、職員の指導力の向上を図る。
- ② 常に目標を持って学習に取り組む意欲付けを行い、何ができて何ができていないのか自己認識を深める評価を行う。
- ③ できるまで繰り返し学習を行う習熟の時間等を設定し、基礎・基本を確実に定着させる。
- ④ 家庭・地域と連携しながら、基本的な生活習慣・学習習慣の定着を図る。

(2) 教育課程内の取組

① 「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の関連的指導

主題研究では、全ての学習の土台となる読解力が不足している（詳細に気をつけて読み取ることができない）という実態から、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」との関連的指導を図り、読みを深める話し合いの在り方の研究に取り組んできた。児童と共に作る学習問題の設定や発問の精選、話し合いの焦点化を通して、相互交流の中で読みを深める話し合いの在り方を究明している。

② 個を生かす評価と支援の在り方

何ができて何ができないのか、自己認識を深める「児童の自己評価の在り方」、個の指導に生かす「教師の評価の在り方」を研究している。

③ 到達目標の設定

- ・ 「読む能力・書く能力・計算の能力・コミュニケーション能力」に関する各学年の到達目標を設定し、評価を実施する。
- ・ 「全校漢字、計算テスト」「町の共通テスト」においても、児童一人一人の目標を設定し、目標達成に向けて努力させている。

(3) 教育課程外の取組

① 日常の表現活動の場の工夫

国語で身に付けた読み取りと話し合いの力を日常の表現活動の場を工夫して、広げていくような取組を行っている。

- ・ 発表集会では、発表が終わったあとに必ず児童にその感想や意見を発表させるようにしている。聞き手に分かりやすいように工夫しながら意見を発表しようとする児童が多くなってきている。
- ・ 学級スピーチでは、スピーチする内容がマンネリ化することがないように、「サイコロ

スピーチ」「新聞を読んで」等の工夫をしながら実施している。

- ・ 全校児童が活動できる「スペース」という場所の一角に「表現のひろば」「わくわくチャレンジ」コーナーを設け、詩や四字熟語を紹介したり、国語や算数に関するクイズを掲示したりしている。掲示物は定期的に貼り替えを行い、児童の興味・関心を高める工夫をしている。

② 習熟の時間の充実

授業等の入らない木曜日の6校時目を活用して、習熟の時間を実施している。この時間は、3年生以上を対象にして、各学年に校長・教頭をはじめとする全職員を配置し、授業を進める中で特に理解が難しかった内容を抽出し、個別指導を行っている。個別指導を行うことにより、児童の理解度が上がるとともに、複数の教師で指導に当たり、協力し合うことで、効果的な指導の在り方を探ろうとする場にもなっている。

③ 家庭学習の充実

家庭学習を充実させるための手立てとして、学習内容に応じた基礎学力の定着を目指して課題の与え方を工夫している。課題は担任がその都度チェックし、なかなか家庭学習が定着しない児童に関しては、家庭への協力を仰ぎながら、根気強く指導を行っている。

(4) 保護者・家庭・地域との連携

① 読書環境づくりの工夫

- ・ 毎週水曜日を「全校読書の日」に設定し、読書活動を推進している。活動を全校一斉に行うことにより、読書に適した静かな環境のもとで、集中して読書活動をするようにしている。
- ・ 毎月第3週末を「家族ふれあい読書の日」に設定し、家族で共に読書をする時間を作ってもらったり、親から読み聞かせをしてもらったりしている。活動した様子は、カードに記入してもらい、家庭での活動の様子を把握したり、家庭での読書についてのアドバイスを行ったりすることに活用している。
- ・ 本校では「全保護者による読み聞かせ」を実施している。朝のひろばの時間を活用し、担当する保護者に自由に読み聞かせをする本を選考して頂き、学年部ごとに読み聞かせをして頂いている。子どもたちはいつも以上に集中して読み聞かせに参加するようになったと同時に、保護者の読書に対する意識高揚にもつながっている。

② 基本的な生活習慣・学習習慣の形成

毎月1回「健康チェック表」「家庭学習チェック表」を家庭に配布し、親子でそれぞれの家庭での洗顔、歯みがき、食事、睡眠、テレビやゲームの視聴に関すること、家庭学習の在り方、学習準備など、基本的な生活習慣や学習習慣に関わる大事な事項を親子で振り返るようにしている。この結果を「学力向上対策委員会」において問題提起をした後、問題解決に向けての協議を行い、共通理解を図った。

③ 「町教育の日」の設定

地域開放の日として、11月の第4日曜日を「町教育の日」と定め、地域の方々に学校における児童の学習や生活の様子を自由に参観して頂きながら、学校教育に関する理解や関心を高めていこうとする取組を行っている。

3 成果と課題（今後の取組を含む）

(1) 成果

- ① 読みを深める話合いの在り方の研究を深めることにより、授業の改善が図れ、児童が意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになってきた。
- ② 習熟の時間等を利用して、繰り返し学習を行うことにより、基礎学力が向上してきた。
- ③ 児童に自己評価を行わせることで、常に自分のめあてを意識しながら学習に取り組む姿が見られるようになってきた。
- ④ 家庭との連携を図ることより、学習習慣や基本的な生活習慣を改善していこうとする意識の高揚が見られるようになってきた。

(2) 課題

- ① 児童が目的をもって自主的・意欲的に学習に取り組む態度を身に付けさせていく。
- ② 家庭や地域との連携をさらに深めることにより、家庭学習の充実・基本的な生活習慣の確実な定着を図っていく。